

# こまえ平和フェスタ 2016 を終えて

## こまえ平和フェスタ 2016 実行委員会

2016年8月14日(日)、狛江エコルマホールにて開催された「こまえ平和フェスタ 2016」(第12回)には、450名の方にご来場いただき、80名の出演者で舞台企画が取り組まれ、また、ホワイエでは昨年にも増して多くの市民参加による展示等が行なわれました。展示はその後、中央公民館のショーケースと西河原公民館ギャラリーで実施、多くの市民の方に鑑賞していただきました。

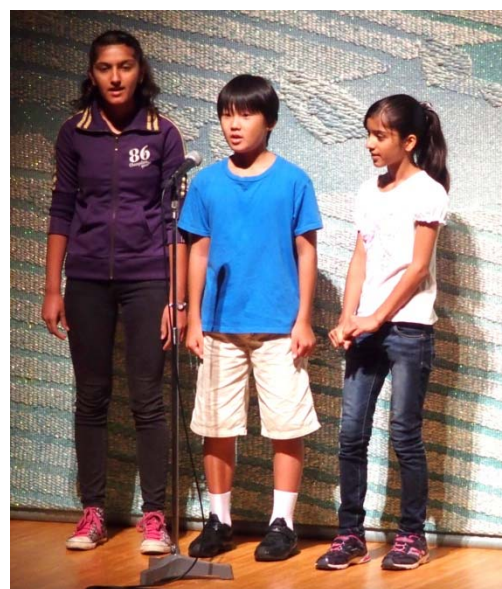
ご来場いただいた市民のみなさん、そして賛同広告や事前協賛金など物心両面でご協力いただいたみなさんの平和への想いを支えに、こまえ平和フェスタを成功裏に終えることができましたことを、深く御礼申し上げます。昨年より市の共催がなくなり資金面で厳しい状況が続いていますが、今後は効率的な運営による支出減をはかるとともに、さらに幅広い方々のご協力を得て、継続・発展させてまいります。

なお、「こまえ平和フェスタ 2016」の詳細は(<http://www.komae-tokyo.org/festa/>)をご覧ください。

今年のテーマは「伝える・知る・つながる～表現の自由と平和～」です。かつての戦争の時代、自由にもものが言えず、情報は制限され、個人よりは国家が尊重される時代でした。いま、私たちは「表現の自由」が憲法でうたわれている社会で暮らしています。それは社会が平和であればこそ。そんな問題意識を持って、今年のテーマとしました。

開幕はミュージカル CoCo から平和フェスタ合唱団に参加した中学生と狛江ぞうれっしゃ合唱団のネパールの姉妹(中学生と小学生)の3人が、力強く今年のテーマを伝え、「会場のみなさんにも私たちの元気が届きますように!」と宣言しました。

最初は和泉児童館の Team ★ D (チーム・ディー) のダンスです。3年ぶりの再登場(2011～2013年に出演)となり、小学生3年生から高校生までの21人で「ホットイン ヒアー」と「ウェイク アップ」の2曲をアップテンポのリズムに乗って、表現豊かに踊りました。子どもたちの笑顔が印象的でした。出演のなかった間に和泉児童館は建て替えられて今年から真新しい鏡付きのホールとなり、さぞ練習にも力が入ったかと思われます。



子どもたちによる開会宣言



Team ★ D のダンス。瞬間、ダンサーはめいめい好きなポーズをとりました。同じポーズの人はいるかな?



舞台の司会は4年ぶりの川上美砂さんです。その昔？は毎年のようにお願いをしていましたが、仕事を調布に移されてからはなかなか調整ができませんでした。今年は綱渡りのような日程でしたが、その日が空いていたのでお願いしました。随所にアドリブがあり、柔らかな雰囲気が舞台を包みました。

菊池リカ実行委員長があいさつに立ち、表現の自由の大切さを訴えて「ここにいるみなさまも、きょうの表現者のひとりです。どうか、たくさん笑って、拍手もして、歌い合って…ください」。また、高橋都彦狛江市長と小川克美狛江市議会議長からのメッセージが紹介されました。

平和フェスタの目的としている「狛江市平和都市宣言」の普及と実践を形としても表現しているのが、恒例となっている「狛江市平和都市宣言朗読劇」です。今年は2人の青年と脚本・演出・出演と大忙しの二階堂まりさんにより行なわれました。昨年の安全保障法制の成立を受け、国連憲章と憲法9条の関係や集団的自衛権にも触れて、今日的な平和都市宣言の意義が語られました。

第1部の最後は木津陽介さんのクラリネットと篠崎陽子さん・鈴木彩さんのマリンバによる演奏です。曲はエルガーの「愛のあいさつ」、マリンバのオリジナル作品「ガーナイア」(アフリカ・ガーナのリズムがもとなる。打楽器ジャンベとのコラボ演奏)、アフリカの飢餓と貧困を解消する目的で作曲された「We are the world」の3曲が演奏されました。“エルガーは姉さん女房で、愛すべき奥さんのために書かれた曲”等と1曲づつ、簡単な説明があり、観客にはとても分かりやすく、親しめました。

第2部は「表現の自由と平和について」をテーマに、文学から川柳・詩人の高鶴礼子さん、報道から国際ジャーナリストの伊藤千尋さん、音楽からクラリネット奏者の木津陽介さんと、それぞれ分野の異なる3



司会の川上美砂さん



あいさつする菊池リカ実行委員長



息の合った狛江市平和都市宣言朗読劇を演じる青年たち



写真左：左から「愛のあいさつ」を演奏するクラリネットの木津陽介さんとマリンバの篠崎陽子さん、鈴木彩さん。

写真右：アフリカ・ガーナのリズムがもとなる「ガーナイア」をマリンバとジャンベのコラボで演奏。



人の方によるパネルディスカッションを行ないました。コーディネーターは大熊啓副実行委員長が務めました。狛江との縁、専門分野との出会いについて驚きあり、爆笑ありで話されました。そしてテーマである表現の自由と政治（あるいは平和）については各専門分野の具体的な話が出され、表現の自由は密接に平和と結びついていることが語られました。最後に表現の自由は平和の保障と言えるが、その平和を守るためにどうしていくべきかに移り、伊藤さんは「自分の頭で考えて、自分で調べて、自分で行動する。それが、一番私たちに問われている」、木津さんは「あふれている情報の取捨選択力は非常に大事。…メディアが一方的に流している情報は疑うこと」、高鶴さんは「一番大事なことは、気づくこと。何かが変えられようとしているとき、そのあとにどのような事態が続いていくのか。そこを考えることのできる能力」。

こうしたお話しが具体的な事実を背景にして説得性を持って語られました。来場者のアンケートでも「面白かった」、「具体的で分かりやすかった」、「もっと時間をとって聞かせて欲しかった」等、とても高い評価を受けました。



高鶴：古本屋で時実新子の川柳との出会いが…  
伊藤：総理大臣になろうと東京に出てきたが…  
木津：国会議員になって、歴史認識を正そうと…



クラリネットとマリンバを伴奏にして、平和への想いを新たに歌う市民公募 50 人の平和フェスタ合唱団

合唱は 50 人の大合唱団がクラリネットとマリンバによる伴奏で、

「HEIWA の鐘」、「ねがい」そして「上を向いて歩こう」を熱唱しました。

そして最後は恒例の狛江市の歌「水と緑のまち」を観客と一緒に全員合唱で締めくくりました。

舞台終了後は、出演者のサインセールが行なわれました。



木津：音楽は政治に闘いを挑んでいる場面が多い…  
高鶴：文学は戦争に阻害されてきた歴史がある…  
伊藤：社会が変わる現場には必ず音楽がある…



終わりを飾るのは来場者と一緒に歌う狛江市歌「水と緑のまち」の大合唱です。  
♪あたたかくふれあうまち 明日を拓く文化のまち ともに求めつくろう…♪



ホワイエの展示は一般公募の平和を願う川柳・俳句・短歌・絵手紙、貼り絵、原爆被災写真、写真と絵画による空襲被災、福島原発事故による被災状況と支援活動、沖縄基地問題などを紹介しました。そして今回は新たに、熊本地震で自ら被災しながら復興支援に動いているいわさき千鶴さんの絵ハガキを狛江に住む親せきの方がその販売を提案され、実施しました。こうして、熊本地震支援、東日本大震災支援（KOPPIE さん）などに協力できることは、平和フェスタとして意義のあることだと思います。これらの展示は8月17日～31日まで中央公民館ショーケースで、8月26日～31日まで西河原公民館ギャラリーで展示し、多くの市民に鑑賞していただくことができました。また、恒例になっています平和図書展示は図書館の協力も得て実施、手にとってご覧いただきました。折り鶴コーナーも設け、折っていただきました折り鶴は広島平和記念館に届けます。

この紙面を借りて、ご協力して頂いた皆さまに、ご来場、ご鑑賞していただいた皆さまにお礼を申し上げます。

来年は2017年7月30日（日）を予定しています。市民自身が考え行動する平和事業として、より充実した平和フェスタで多くの市民と平和を誓いあいしたいと思います。



舞台終了後サインセールをする、手前から伊藤千尋さん、高鶴礼子さん、篠崎陽子さん。



ホワイエで展示を見る来場者



中央公民館ショーケースにて、大空襲と原爆の写真・絵画を展示



東日本大震災支援のために「たいのぼり」(ミニたいやき)を販売するKOPPIEの皆さん。完売でした。



西河原公民館ギャラリーで、公募作品、KOPPIE流貼り絵、原爆被災の現状とちよんまげ隊など支援活動、沖縄基地問題を展示



熊本地震支援のためにいわさき千鶴さんの絵ハガキを販売するコーナー。沢山の支援をいただきました。

2016年9月 こまえ平和フェスタ 2016 実行委員会 発行

ホームページ：<http://www.komae-tokyo.org/festa/>

連絡先：〒201-0005 狛江市和泉本町 4-7-10-502

菊池 リカ

